

学会レポート

M1 駒場加奈枝

私は、2013年12月3日から6日に開催された第36回日本分子生物学会年會に参加し、ポスター発表を行わせていただきました。

初めての学会発表だったので、不安な面も多々ありましたが、たくさんの方が発表を聞きにきてくださり、貴重なご意見もいただくことができました。また、私の研究の中心にもなっている Lamin について研究している新潟大学の古川和広先生のグループの発表は、同じ因子についてショウジョウバエを用いて研究をしている同年代の学生による研究発表だったこともあり、とても良い刺激になりました。

シンポジウムやワークショップでは、私が興味を持っているエピジェネティック制御だけでなく、オートファジーによる恒常性維持機構に関する発表が特に面白い内容でした。

また、私の研究の先駆者であり、以前当研究室に在籍されていた勝山朋紀先生も今回の学会に参加されており、discussion する機会をいただきました。学会後には、食事をしながら研究の進展状況などの詳しいお話を聞いていただき、また、ご意見もいただけたことは、今後研究を進めるにあたり非常にありがたい経験となりました。

今回このような貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。



第36回日本分子生物学会レポート

B4 長井 広樹

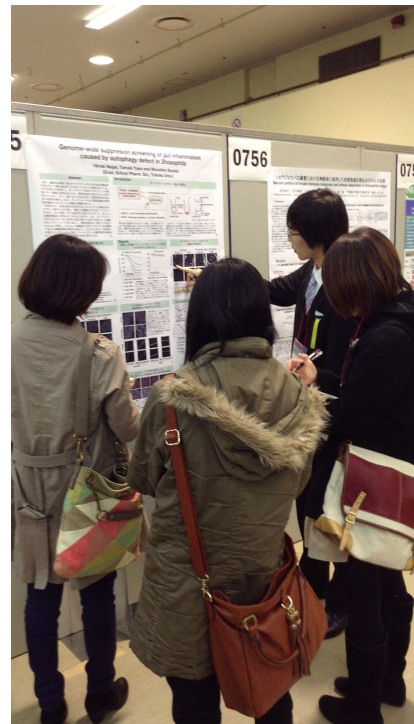
2013年12月3日から6日にかけて開催された、第36回日本分子生物学会に参加させていただきました。

ポスター発表での参加となり、指定された発表時間は1時間と短いものでしたが、時間を過ぎても自分のポスターを見に来てくださる方もおり、多くの方と議論を交わすことが出来ました。中にはうまく応えることの出来ない鋭い指摘もあり、自分の至らなさを実感しました。一方で、「面白いですね！」と自分の研究に興味を持っていただくことができたときは非常に嬉しく、改めて研究に対するモチベーションを高めることができました。

シンポジウムやワークショップでは、自分の研究テーマでもあるオートファジーの世界を牽引する水島昇先生を初め、著名な先生方の研究発表を聞くことができました。(恥ずかしながら) これまで自分が知らなかった生命現象に関する知見を得ることもでき、有意義な時間を過ごせました。

また、今回の学会には、過去に生命機能解析学分野に在籍していた先輩も参加されており、自分の研究にアドバイスをしていただけたり、学会後に楽しくお酒を交わしたりと、普段はできない交流ができとても嬉しかったです。

今回、学会への参加を通じてこのような充実した体験をさせていただけたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



第 36 回日本分子生物学会に参加して

M2 増子 恵太

私は 2013 年 12 月 3 日から 6 日まで、神戸で行われた第 36 回日本分子生物学会にてポスター発表をさせて頂きました。興味深い発表が非常に多く、ショウジョウバエの遺伝学を駆使して細胞競合の新たな分子機構に迫った井垣先生（京都大）や iHep 細胞（マウス繊維芽細胞から肝臓細胞へのダイレクトリプログラミングを誘導した細胞）の細胞運命転換におけるエピゲノム変化について報告した鈴木先生（九州大）らの講演が特に印象深かったです。本研究室 OB の勝山先生（Basel Univ）を始め、多くの先生方に研究に関する有益な suggestion やとても興味深いといった励ましの言葉を頂き、非常に有意義な 4 日間を過ごすことが出来ました。神戸ルミナリエもちょっとだけ見ることが出来ました。

今回このような機会を与えてくださったことに感謝致します。

第 36 回日本分子生物学会レポート

M1 村野 聡

私は 2013 年 12 月 3 日から 6 日にかけて神戸で開催された第 36 回日本分子生物学会に参加し、ポスター発表をさせていただきました。ポスター発表には多くの方が来てくださり、貴重な議論を交わすことができました。また、私が研究しているオートファジーに関するポスター発表も多く見受けられ、それらの発表者の方々と議論を通じてさまざまな見解を得ると共に、今の研究の質を上げたい！さらに新しい何かを発見したい！というモチベーションが高まりました。

シンポジウムではオートファジー研究をリードする水島昇先生や、私の研究に深く関わっている p62 がオートファジーにより選択的に分解されることを発見した小松雅明先生のセッションが特に興味深い内容でした。

学会後の夜は、研究室の OB である熊田修士とお酒を飲みながら話す機会があり、研究の話だけでなく現在の生活などいろいろと楽しい話ことができました。

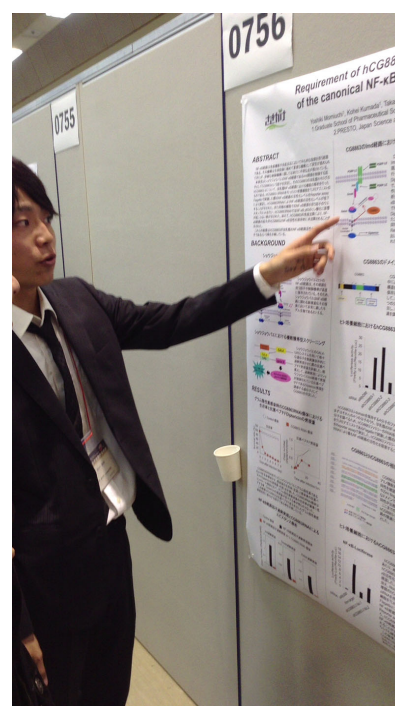
今回、このような機会を与えてくださって感謝しています。ありがとうございました。

第 36 回 日本分子生物学会 参加レポート

B4 糸内 義希

2013 年 12 月 3 日から 6 日にかけて開催された、第 36 回日本分子生物学会に参加させていただきました。

私は 1 時間のポスター発表をさせていただきました。今回が初めての学会発表という事もあり、自分の発表を聞きに来ていただいた方々との議論の中で、プレゼンテーション能力や研究テーマに対する知識が不足していると実感する場面が多く、自分の未熟さを痛感しました。一方で、多くの方に自分の研究を知っていただく事が、とてもよいモチベーションになる事を知り、また議論を通じて多くの方から貴重なご意見を頂くことができ、得る物の多い発表となりました。



シンポジウムやワークショップでは、私の研究テーマである NF- κ B シグナル伝達制御に関連する演題から、完全に異分野の演題まで非常に幅広い分野の演題を聞き、見聞を広げることができました。

また、今回の学会には自分の研究の前任者であり、以前当研究室に所属されていた熊田幸平修士（トーアエイヨー）も参加されておりました。自分の研究について、実に有益なアドバイスを頂けただけでなく、学会後には研究以外のこともお酒を交えながら楽しく話す機会をいただき、非常に嬉しかったです。

今回、このような学会への参加という貴重な機会を与えてくださったことに深く感謝いたします。

第 36 回 日本分子生物学会 学会レポート

B4 見目 裕之

2013 年 12 月 3 日 ~ 6 日にかけて神戸で開催された、第 36 回日本分子生物学会に参加させて頂きました。

私は学会 3 日目にポスター発表を行いました。当初発表する予定だった内容を、諸事情により 1 か月前に変更することになったときはとても焦りましたが、何とか発表に間に合わせることができました。ポスター発表では、初めての機会ということもあって非常に緊張したものの、私の研究内容に興味を持って話を聞いて下さる方がいて、とても嬉しかったです。また、脳神経系の分野が専門の先生方や、腸脳相関について研究なさっている方々などから、普段の研究室生活では得ることが難しい有益な意見やアドバイスを頂くことができ、自分の勉強不足を痛感すると共に、今後の研究のモチベーションをあげることができました。その他、4 日間の学会期間中は多くの興味深い話を聞くことができ、自分の視野を広げる良い機会になったと思います。

学会会場が神戸ということで、かの有名なイルミネーションのルミナリエを鑑賞したり、神戸牛（の様なもの）を食べることができたりと、神戸の街を楽しむこともできて、とても良かったです。

この様な機会を与えて頂いたことに心より感謝致します。